松江小だより

令和６年６月２８日
７月号
江戸川区立松江小学校

～「あなたもわたしも大切な一人」すべての命の尊さを伝えること～

校長　大須賀　慎一

過日、区内小学生児童が自転車で移動中に自動車と接触し、死亡する痛ましい事故が発生しました。心からお悔やみを申し上げるとともにご冥福をお祈りいたします。また、ご家族はじめ学校関係者の皆々様のご心痛をお察しいたします。この事故を受けて、本校では交通安全について改めて児童へ指導を行い、特に「自転車安全利用五則」を遵守して自転車に乗るようお伝えしております。ご家庭におきましても、自転車に乗る時、特にヘルメットを着用して、万一の時に命を守る行動をお願いいたします。

児童朝会でも、子供たちに事故の話をしました。いつもは、元気なあいさつから始まるのですが、その日ばかりは、あいさつもできずに話を始めました。「みんなの命は一つしかありません。絶対に死んじゃだめだよ。」と話をしました。すると、子供たちの真剣な目が私をとらえ、うなずく子供たちがたくさんいました。

本校では、「あなたもわたしも大切な一人」を教育の柱として、すべての命は尊いものである命の教育に取り組んでいます。取組の一つとして、あいさつ・返事の励行があります。一人一人と顔を合わせ、あいさつをすること、名前を読んで返事をすること。このことにより、一人一人の人格を尊重し、そこに生きる存在意義を実感することができます。あいさつ運動では、子供たちが率先してあいさつを行ってくれました。大きな声であいさつをする子がいます。はにかみながら、小さな声であいさつをする子がいます。目を見るけれど声に出せない子がいます。あいさつには、いろいろな形があってよいと思っています。もちろん、誰もが元気にあいさつをしてほしいのですが、いろいろなあいさつこそ、生きていることなのでしょう。

繰り返しの話になりますが、東日本大震災でたくさんの尊い命を失った大川小学校へ訪問した際、遺族である佐藤敏郎様の言葉が胸に刺さっています。「誰一人死にたくなかったでしょう。子供たちはもちろん、先生たちだって必死だったでしょう。死にたくないと思ったでしょう。でも、死んでしまったのです。そこに、何があったのか考えなければなりません。」。この言葉を聞いた時、子供たちの姿が思い浮かび、涙が止まりませんでした。朝会で子供たちに伝えた「死んじゃだめだよ。」。そのためには、私たち大人が子供たちに何を伝えるのか、命を守るために何をすべきなのかを考えなければなりません。

国語の教材に「ごんぎつね」というお話があります。誰もが一度は読んだことある名作です。いたずら好きのきつね・ごんは、兵十がせっかくとった魚を川にぶちまけてしまいます。ところが、病気の母親のためにと兵十が魚を取っていたことを知ったごんは、償いに魚や栗を密かに運んでいました。運んでいるのがごんと知らない兵十は、ごんがまたいたずらに来たと思いごんを火縄銃で打ってしまいます。魚や栗を運んでいたのがごんと知った兵十は、自らの手でごんを死なせてしまったのです。

「死」というものは、痛ましいことであり、つらいことであります。「死」という痛ましさやつらさを子供たちに考えさせることは、生きる尊さを伝えることになるのでしょう。子供たちの「生きる」姿を、私たちは尊いものであることを実感し、何を伝え何を諭していくのか、これからも考えていきたいと思っております。